

「発達障がいのある方のための
支援の引継等に関する手引き」に関する
アンケートまとめ

平成29年1月

大阪府福祉部障がい福祉室

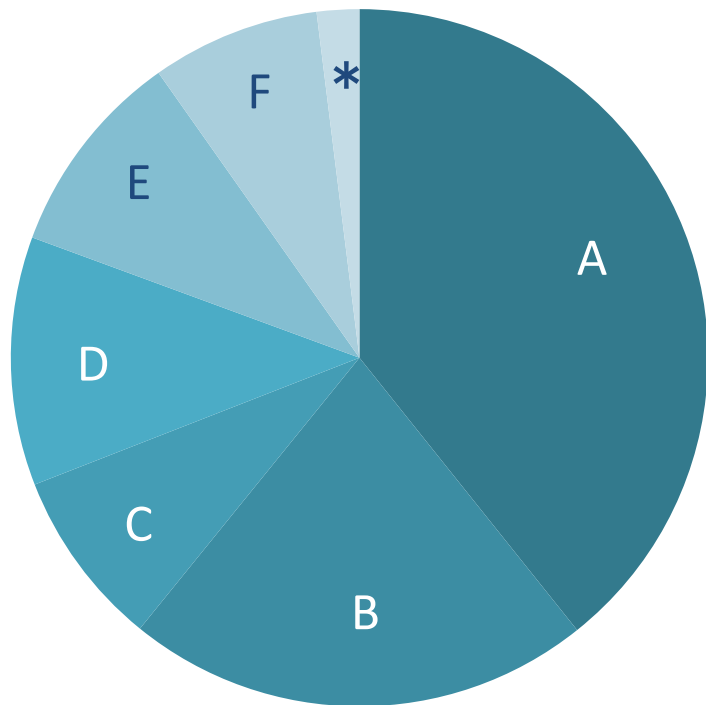
アンケート実施対象

- 平成27年4～6月にかけて、「発達障がいのある方のための支援の引継に関する手引き」を配布した学校園・支援機関・市町村等

	配布数	回収数	回答率
幼稚園・保育所・認定こども園	1484	475	32%
小学校・中学校・高等学校	1245	819	66%
支援学校	33	33	100%
専修学校	222	132	59%
大学	55	35	64%
事業所	697	257	37%
市町村	246	112	46%
その他	65	19	29%
合 計	4047	1882	47%

Q1-1. 発達障がいのある方(可能性のある方を含む)の支援について、他の支援機関への引継を行っていますか？

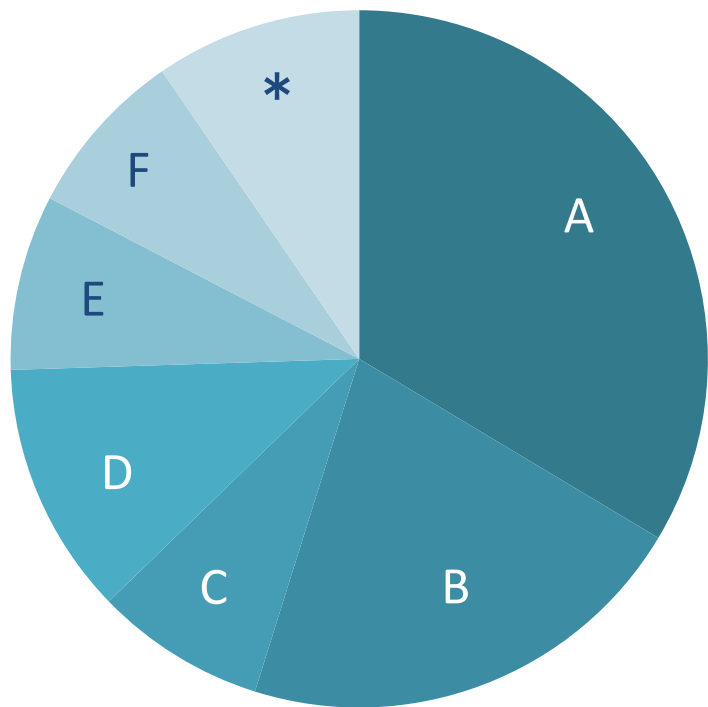
①他機関に支援を引き継ぐ場合



		回答数	%
A	全ケースで実施	739	39.3
B	ほとんどのケースで実施	406	21.6
C	半数程度のケースで実施	155	8.2
D	ほとんど実施なし	217	11.5
E	全く実施なし	181	9.6
F	引継を実施する機会がない	147	7.8
*	無回答・無効回答	37	2.0

Q1-1. 発達障がいのある方(可能性のある方を含む)の支援について、他の支援機関への引継を行っていますか？

②他機関から支援を引き継がれる場合



		回答数	%
A	全ケースで実施	632	33.6
B	ほとんどのケースで実施	400	21.3
C	半数程度のケースで実施	149	7.9
D	ほとんど実施なし	221	11.7
E	全く実施なし	153	8.1
F	引継を実施する機会がない	147	7.8
*	無回答・無効回答	180	9.6

Q1-2. 実際に支援の引継を行う中で、
どんなことが課題だと思いますか？（自由記述）

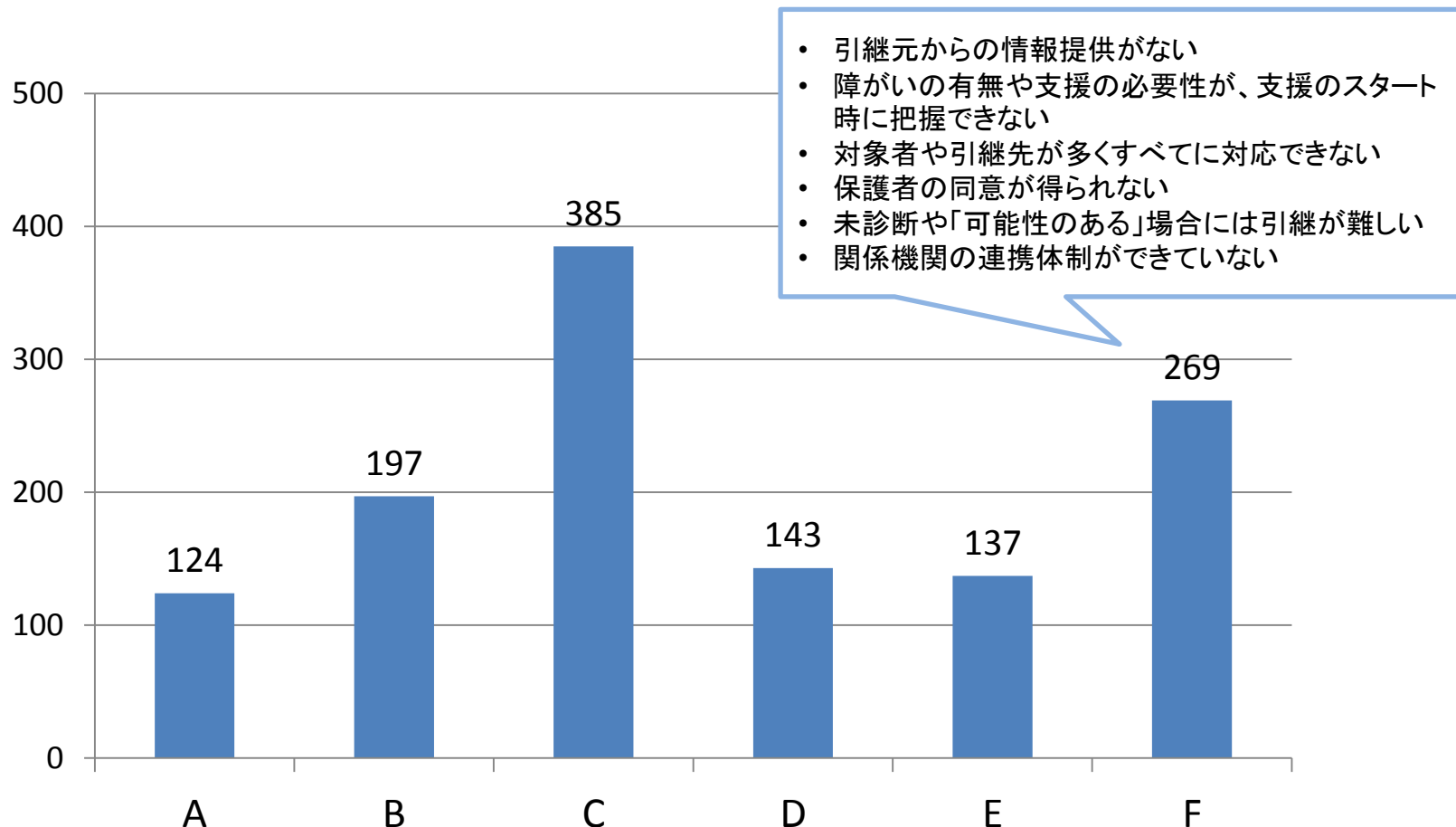
- 本人・保護者の同意・理解
- 個人情報の問題

- 引継先の関係機関の理解
- 引継のシステム化
- 組織内の意識統一・体制づくり

- 日頃の連携関係
- 時間的・人材的余裕
- 発達障がいに関する担当者の理解・知識・支援スキル

- 引継の実施方法

Q1-3. 支援の引継が行われていない場合、その理由は何ですか？（複数回答）



A: 引継に時間や手間をかける余裕がない

B: 引継を行いたいですが、相手先(支援の引継元・引継先)の協力が得られない

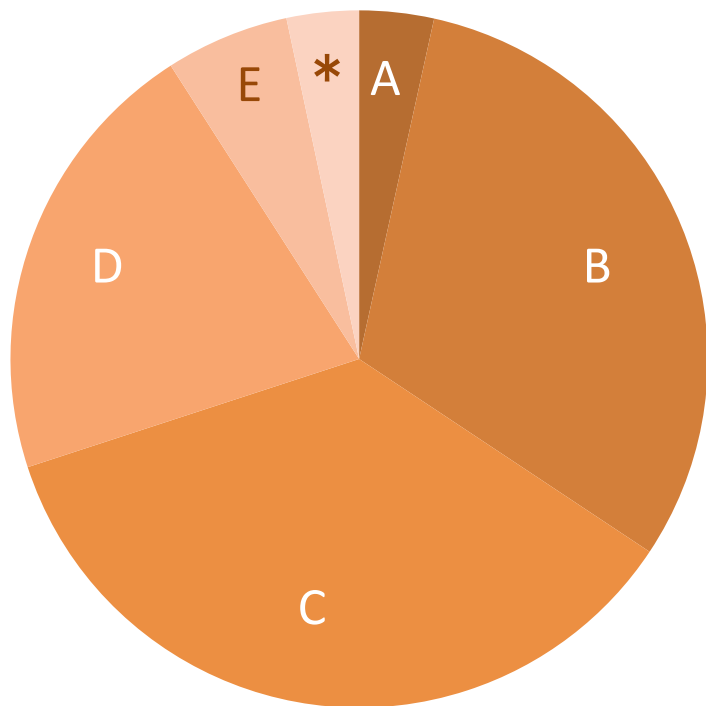
C: 引継を行いたいですが、本人・家族の同意が得られない

D: どのように引継を行ったらいいかわからない

E: 引継を行う必要がない

F: その他

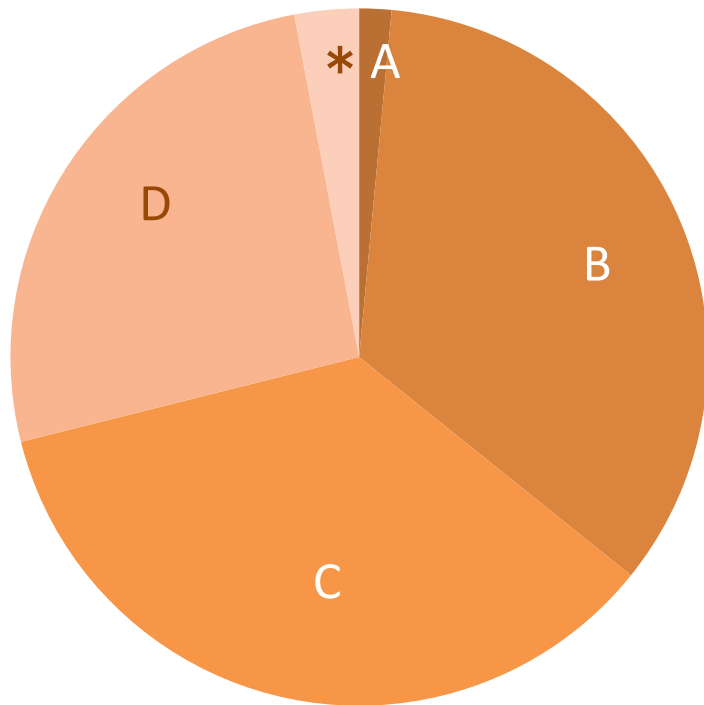
Q2-1. 日常業務の中で、 「支援の引継等に関する手引き」を活用していますか？



		回答数	%
A	日常的に活用している	65	3.5
B	時々活用している	581	30.9
C	手引きはあるが、あまり活用していない	671	35.7
D	手引きがない、手引きがあるか分からない、手引きのことを知らない	394	20.9
E	その他	108	5.7
*	無回答・無効回答	63	3.3

Q2-2. 手引きを活用していない理由は何ですか？

(Q2-1で「あまり活用していない」と回答した671機関に質問)



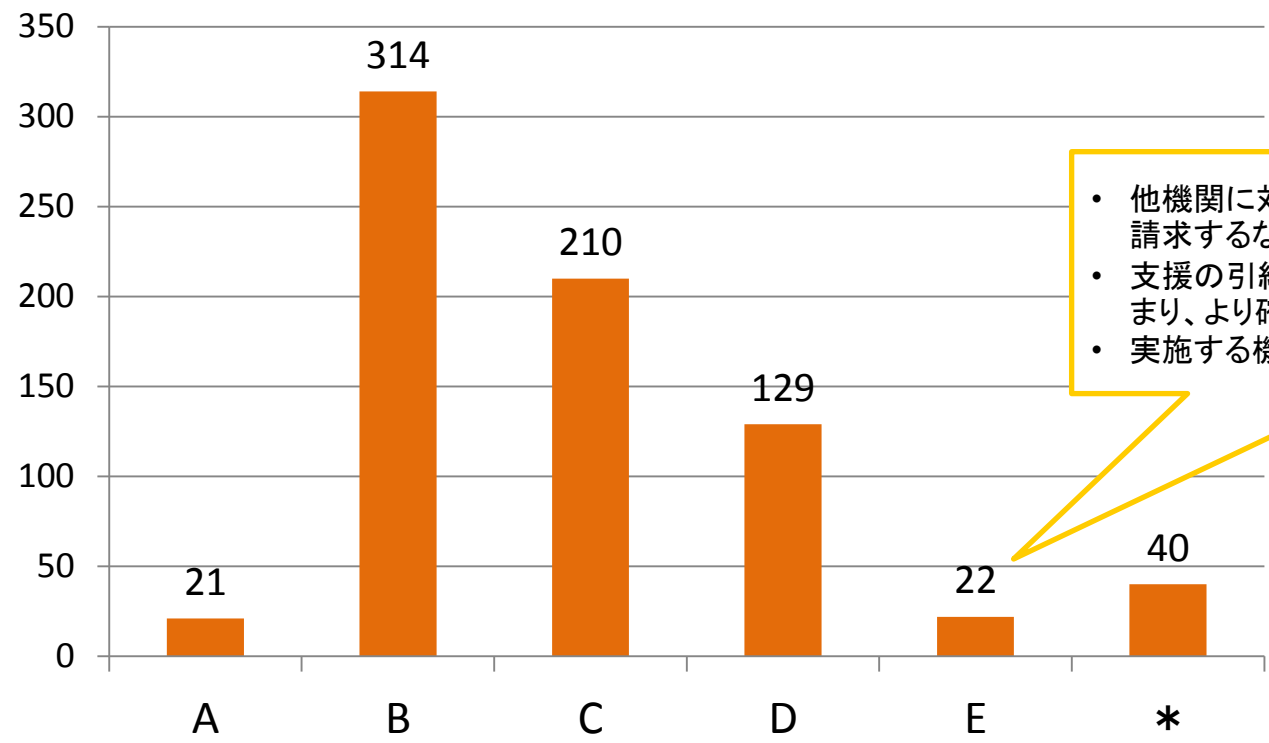
		回答数	%
A	内容が参考にならなかった	10	1.5
B	内容は参考になったが、実践するには難しかった	230	34.3
C	すでに実践している内容だった	237	35.3
D	その他	174	25.9
*	無回答・無効回答	20	3.0

【その他】

- 様式の統一
- 関係機関との日頃の連携、顔の見える関係づくり
- 支援にかかわる機関の意識統一（機関内を含む）
- 職員のスキルアップ
- 専門職の配置
- 引継の重要性とメリットを当事者に理解してもらうことと、そのための日常の関係づくり
- 引継に関する啓発

Q2-3. 手引きの活用によって、支援の引継の実施状況は変化したと思いますか？（複数回答）

（Q2-1で「活用している」と回答した646機関に質問）



- 他機関に対して支援の引継ぎのための資料を請求するなどの機会が増えた
- 支援の引継ぎについて相手機関の理解が深まり、より確実に引継が行われるようになった
- 実施する機会がない、少ない・・・等

A: 引継の件数が増えた
B: 引継の内容が充実した
C: 引継が効率よく行えるようになった
D: あまり変化していない
E: その他
*: 無回答・無効回答